

令和5年12月19日

高山市議会議長 様

職氏名 水野 千恵子
西本 泰輝

次のとおり出張しましたので、その結果を報告します。

用 務	講座受講
視 察 先	オープンカレッジ i n 飛騨 2 0 2 3
期 間	令和5年10月8日～10月8日まで1日間
結 果	テーマ 『観光まちづくり』のこれまでとこれから 講 師 國學院大學観光まちづくり学部教授 米田誠司氏 自身も由布院で生活される米田先生が、由布院温泉の概要や歴史、長年のまちづくりの取組を紹介される中で、「観光まちづくりとは何か」に始まり、野中幾次郎「4つの知識変換モード」、「地域での S E C I プロセスの駆動」等々のお話もされながら、将来を展望しこれからの観光まちづくりについて教示いただいた。 下記の「由布院の観光まちづくりの哲学」は、高山市の観光まちづくりでも大いに学ぶべきことであると考えます。 ・由布院は大きくなることをやめて、小さいままの豊かさを追いかけよう、主役は地域であると1970年代に宣言。 ・地域で見過ごしてきた普通のものごとが、すばらしい資源の種であることを初期から認識。 ・情報受発信を地域内外で綿密に行い、その地域内外にさまざまな関係性を構築。花水樹の発刊。 ・地元食材を地域内循環させる、仕入れを地域優先にする等、産業連関を図っていくことを重視。 ・地域の中に多くの「組織」を立上げ有機的に連携させ、その中で人材育成を実践。

令和5年12月15日

高山市議会議長 様

氏名 渡辺 甚一
戸田 柳平

次のとおり講座を受講しましたので、その結果を報告します。

用 務	講座受講
視 察 先	オープンカレッジ in 飛騨 2023
期 間	令和 5 年 10 月 14 日～ 10 月 14 日まで 1 日間
結 果	テーマ「都市空間との関係性から祭礼の継承を考える」 講師：佐藤弘隆氏（愛知大学地域政策学部 准教授） ① 京都市中心部と祇園祭 ② 犬山市城下町地区と犬山祭 この講座では、①②を通じて、地理学的視点から都市と祭礼との関係性をご講義頂いた。 事例として京都祇園祭と犬山祭の歴史や現状を取り上げ、それぞれの行事運営の持続性を検討することで、現代都市における祭礼の継承のあり方を学習した。 飛騨地方における高山祭や古川祭など、全国的に有名な祭礼が継承されている。その実践者や関係者も今講義に参加されており、講義の後、講師の先生と共に情報・意見交換を通じて参加者全体で本テーマについて考察、議論を行った。

令和 6 年 1 月 1 5 日

高山市議会議長 様

氏名 伊東 寿充

次のとおり講座を受講しましたので、その結果を報告します。

用 務	講座受講
視 察 先	オープンカレッジ in 飛騨 2023 ⑤國學院大學 少子高齢化時代の地域コミュニティ 講師：國學院大學観光まちづくり学部 准教授 松本貴文氏
期 間	令和 5 年 10 月 22 日～ 月 日まで 1 日間
結 果	少子高齢化が進み、様々な場面で地域コミュニティの果たす役割が注目されている。その一方で、担い手の減少や地域活動の停滞などの課題も顕在化している。高山市と國學院大學との共同研究の成果に触れながら、地域コミュニティの変容と今後についての考察を交えた講義となった。 人口置換水準の維持、再生産平等主義といった社会から、少子化へのプロセスを学ぶとともに、未婚化による少子化といった課題も大きなものであるとの指摘があった。丹生川地域等でのフィールドワークを中心にデータ化された、住民として現れない潜在的な地域住民である、拡張地域コミュニティの考え方をもとに、今後の地域コミュニティの在り方を探る研究の一端を学べた。

令和 5年12月21日

高山市議会議長 様

氏名 沼津光夫

次のとおり講座を受講しましたので、その結果を報告します。

用 務	講座受講
視 察 先	オープンカレッジ in 飛騨 (国學院大学)
期 間	令和 5年 10月 28日 1日間
結 果	○持続可能な地域と観光まちづくり。 ○なぜ、地域の個性をみつけ、みがくのか。 ○どのように、地域の個性をみつけ、みがくのか。 ○丹生川の個性をみつけ、みがく。 ○観光のまちづくりで持続する地域を展開する。 ・複雑な社会的課題に対応するため、観光のまちづくりを推進する。 ・地域の個性をみつけることで、地域のつながりが強まる。 ・地域の個性をみがくることで、持続可能な地域環境、地域社会、地域経済をめざす。

令和5年12月26日

高山市議会議長 様

氏名 水野 千恵子

次のとおり講座を受講しましたので、その結果を報告します。

用 務	講座受講
視 察 先	オープンカレッジ in 飛騨 2023
期 間	令和5年10月29日～10月29日まで1日間
結 果	テーマ「画材から見る日本画の魅力」 講師：名古屋芸術大学 長谷川 喜久 主任教授 日本画とは古代以来中国・朝鮮からの影響を受けながら日本で独自に発達した絵画である。和紙や絹に描く画材の墨ひとつをとっても、作り方で品質も異なり手間暇がかかる分希少価値も変わる。絵の具も元来は天然素材を用いた水干（すいひ）、群青（ぐんじょう）や緑青（りょくしょう）の岩絵の具、箔（はく）や泥（でい）など金属質の絵の具など、色を表現するのに様々な物を用い、手法を考え確立していった歴史がある。知れば知るほど奥が深く、新しい画材を作り出すことが可能な現代だからこそ、身近にある物から作り出した先人の知恵には脱帽する。 前半の講義のあと、後半は実技でミニ掛け軸を作成 来年の干支にちなみ、教授がデザインの龍を実際に学んだ画材で描いて終了。水彩画等で使うのとは違う画材で大変興味深い講義であった。

令和 5 年 1 2 月 1 9 日

高山市議会議長 様

氏名 水門 義昭
伊東 寿充
西本 泰輝
水野 千恵子
戸田 柳平
中村 匠郎
西田 稔

次のとおり講座を受講しましたので、その結果を報告します。

用 務	講座受講
視 察 先	オープンカレッジ in 飛騨
期 間	令和 5 年 1 1 月 1 8 日 1 日間
結 果	大正大学「縮小社会の自治のあり方」 ○縮小社会問題と解決の視点 ・縮小社会の現状 ・縮小社会における自治拡大の可能性 ○議会をめぐる状況 ・なり手不足問題 ・民主主義の機能不全 ○議会の役割の再確認 ・思いつきではない改革。議会基本条例に刻み込む ・バクハツとしての展開、約 9 0 0 自治体。従来とは異なる議会運営を明確化

令和5年12月20日

高山市議会議長 様

氏名 榎 隆司

次のとおり講座を受講しましたので、その結果を報告します。

用 務	講座受講
視 察 先	オープンカレッジ in 飛騨2023
期 間	令和5年11月25日～ 11月25日まで 1日間
結 果	文教大学 国際学部 国際観光学科 講師 黛 陽子 「サステナブルツーリズムとワーケーションの可能性」 サステナブルツーリズム（持続可能な観光）を対象とした地球と地域生活と人間にやさしい観光のあり方について、基礎知識を取得し、最先端の取り組みまでを学ぶことを目的とした。 サステナブルツーリズムの過去から現在については、ハワイをしのぐ国際観光島として欧米観光客に人気のインドネシアバリ島を事例とし、滞在する世界中の観光客が今現在望んでいるサステナブルツーリズムの形を多くの写真とビジネスモデルを紹介受けながら、学びを深めました。